

2023 年 1 月 18 日

2022 年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科課題研究

放射線専門看護師養成課程を有する大学の
看護師課程・保健師課程における
放射線教育の在り方の検討
Investigation Study of Radiation Education in
Nursing and Public Health Nursing Courses at
Universities with Radiation Certified Nurse

21MN018

嶋原 菜穂

【目的】

本研究は、放射線専門看護師養成課程を有する学校の看護師課程ならびに保健師課程において放射線教育が体系化されていると想定した上で、その課程のシラバス等を収集し、また両課程に携わる教員にインタビューを実施することで、看護師課程と保健師課程における放射線教育の実態とその在り方について検討すること。

【方法】

放射線専門看護師養成課程を有する大学において、看護師又は保健師課程で放射線教育を行なっている教員に対し、半構造化インタビュー調査を行うとともに、シラバス等の資料を収集し、放射線教育の実態を明らかにする。

【結果】

3施設5名にインタビューを行った。1校の保健師課程を除く5課程では放射線に関する授業を実施している科目を有していた。科目全てにおいて放射線を扱っているものは少なく、科目内の一部の授業で放射線を取り扱う科目が多く、専門科目の成人や治療・方法論の科目においてがん看護や放射線治療について触れられていた。

多くの科目では看護や治療に関わる医用放射線、原子力災害であり、放射線の基礎について十分な時間を取り学習しているのは、X大学の選択教養科目のみであった。医用放射線では、放射線治療や診断、がん患者の看護が教授されていた。災害に関連した内容としては、原子力災害の概要として、関連法規や体制、過去の原子力災害、急性放射線症候群などの影響が教授されていた。

【結論】

放射線専門看護師養成課程を有している大学ではあるが、1校を除き、体系的に放射線教育を行っているとは言いがたい結果となった。また、放射線に関する教育を実施するにあたり様々な困難が明らかとなったが、同時に、継続的な学習や学生が理解しやすい教授方法など、実施における工夫点も挙げられた。加えて、放射線教育を実施している課程での自校だけでなく他大学を含む複数の教育機関等を含む連携やAI等時代に即した技術の活用により、限られた時間や人員等の教育資源を共有・活用していく可能性も見出された。これらの対象者の語りから、放射線に関する教育を行う、または展開していくための参考となる資料が得られたのではないかと考える。放射線看護はまだ特定されたばかりである分野ではあるが、今後、専門看護師が認定されその数が増えていけば、放射線看護に対する認知度が高まっていくことが推察される。そうなれば、放射線教育の重要性を認識する機会も増え、そのあり方について議論が進むことにつながるのではないだろうか。